２０２５年１１月実施

第２４回

農業簿記検定®

❷級　問題

注 意 事 項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。

2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。

・筆記具（ＢまたはＨＢの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー

・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）**・時計**（通信機能を有するものを除く）

3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。

4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。

5 上掲 4 の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。

6 試験時間は、**２時間（１２０分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。

7 この問題冊子には、**問題２５問まで掲載**しています。
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。

8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。

9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。

10 退室可能時間は、試験開始後 30 分後から試験終了 10 分前です。
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。

11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。

12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。

13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催　一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修　一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“**農業簿記検定®**”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1　以下の空欄（　①　）～（　③　）に入る正しい組合せの選択肢を一つ選びなさい。

農産物原価計算の目的は以下の 3 つが挙げられる。

農産物をより安く効率的に生産するために必要な情報を得るための（　①　）目的、貸借対照表や損益計算書を作成するために必要な情報を得るための（　②　）目的、農業経営における利益をどの程度確保するのかといった計画を立てるための情報を得るための（　③　）目的である。

【選択肢】

	①	②	③
1	原価管理	財務諸表作成	利益計画
2	原価管理	価格計算	利益計画
3	原価管理	財務諸表作成	価格計算
4	原価管理	利益計画	財務諸表作成
5	利益計画	財務諸表作成	原価管理

問題 2　当農業法人の肥料に関する仕訳の空欄（　①　）（　②　）に入る金額の正しい組合せの選択肢を一つ選びなさい。なお、肥料については実際消費量を棚卸計算法で計算し、消費価格は総平均法を用いている。肥料は材料勘定を用いている。

5 月 1 日　　前月繰越は 20 kg（@20 円/kg）であった。
5 月 10 日　肥料 180 kg（@22 円/kg）を掛で購入した。
5 月 31 日　肥料の月末実地棚卸量は 30 kgであり、消費額につき間接材料費を計上した。

5 月 10 日の仕訳

借方科目	金額（円）	貸方科目	金額（円）
材　　料	（　①　）	買　掛　金	（　①　）

5 月 31 日の仕訳

借方科目	金額（円）	貸方科目	金額（円）
製造間接費	（　②　）	材　　料	（　②　）

【選択肢】

	①	②
1	3,960	654
2	3,960	3,700
3	3,960	3,706
4	4,360	654
5	4,360	3,706

問題 3 以下の〔**資料**〕に基づいて、当月の経費消費額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

〔**資料**〕

1. 作業委託費

前月末未払額 18,000 円　　当月支払額 180,000 円　　当月末未払額 12,500 円

2. 建物減価償却費

年間見積額 600,000 円

3. 動力光熱費

当月支払額 142,000 円　　当月測定額 140,000 円

4. 棚卸減耗損

帳簿棚卸高 42,000 円　　実地棚卸高 40,200 円

【選択肢】

１. 366,300　　**２**. 368,300　　**３**. 377,300

４. 404,700　　**５**. 916,300

問題 4　以下の製造間接費に関する〔**資料**〕に基づき、空欄（　①　）～（　③　）に入る金額または語句の正しい組合せの選択肢を一つ選びなさい。なお、当社は製造間接費を実際配賦している。

〔**資料**〕

1. 製造間接費実際発生額　3,017,000 円
2. 製造間接費配賦基準

	ジャガイモ	ピーマン	ニンジン
作付面積	1,200 ㎡	1,500 ㎡	800 ㎡

3. 各農産物への製造間接費実際配賦金額

ジャガイモ	ピーマン	ニンジン
（　①　）円	（　？　）円	（　②　）円

4. 製造間接費を仕掛品勘定へ振替える仕訳

借方科目	金額（円）	貸方科目	金額（円）
（　？　）	3,017,000	（　③　）	3,017,000

【選択肢】

	①	②	③
1	689,600	1,034,400	製造間接費
2	689,600	1,293,000	仕掛品
3	1,034,400	689,600	製造間接費
4	1,034,400	1,293,000	仕掛品
5	1,293,000	689,600	仕掛品

問題 5 以下の〔**資料**〕に基づき、製造原価報告書の空欄（　A　）に入る金額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

〔**資料**〕（単位：円）

種苗費

買掛金	800,000	仕掛品	800,000

仕掛品

前期繰越	356,800	製品	2,194,000
種苗費	800,000	次期繰越	392,800
賃金手当	180,000		
製造間接費	1,250,000		
	2,586,800		2,586,800

肥料費

前期繰越	150,000	製造間接費	650,000
買掛金	620,000	次期繰越	120,000
	770,000		770,000

賃金手当

預り金	140,500	未払費用	28,000
当座預金	461,500	仕掛品	180,000
未払費用	26,000	製造間接費	420,000
	628,000		628,000

製品

前期繰越	380,000	売上原価	2,163,500
仕掛品	2,194,000	次期繰越	410,500
	2,574,000		2,574,000

製造間接費

肥料費	650,000	仕掛品	1,250,000
賃金手当	420,000	原価差異	40,000
減価償却費	220,000		
	1,290,000		1,290,000

売上原価

製品	2,163,500		
原価差異	40,000		

製造原価報告書　（単位：円）

Ⅰ 直接材料費		(?)
Ⅱ 直接労務費		(?)
Ⅲ 製造間接費		
実際発生額	(?)	
製造間接費差異	(?)	(?)
当期総製造費用		(A)
期首仕掛品棚卸高		(?)
合計		(?)
期末仕掛品棚卸高		(?)
当期製品製造原価		(?)

【選択肢】

1．2,163,500　　**2**．2,194,000　　**3**．2,230,000

4．2,234,000　　**5**．2,270,000

問題 6　**問題 5** の〔**資料**〕に基づき、以下の損益計算書を完成させた場合の空欄（　B　）に入る金額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

損益計算書　　（単位：円）

Ⅰ 売上高		3,461,000
Ⅱ 売上原価		
1. 期首製品棚卸高	（　？　）	
2. 当期製品製造原価	（　？　）	
合　計	（　？　）	
3. 期末製品棚卸高	（　？　）	
差　引	（　？　）	
4. 原価差異	（　？　）	（　？　）
売上総利益		（　？　）
Ⅲ 販売費及び一般管理費		420,000
営業利益		（　B　）

【選択肢】

１．807,000　　２．837,500　　３．877,500

４．917,500　　５．1,257,500

問題 7 当社は畜産農業を営んでおり、単純総合原価計算を実施している。以下の〔**資料**〕に基づいて、期末仕掛品原価と完成品原価の正しい金額の組合せを示す選択肢を一つ選びなさい。なお、期末仕掛品原価の算定は、先入先出法による。

〔**資料**〕

1. 生産データ

期首仕掛品	50 頭
当期投入	1,270 頭
合計	1,320 頭
期末仕掛品	120 頭
完成品	1,200 頭

2. 原価データ

期首仕掛品原価		当期製造費用	
素畜費	110,000 円	素畜費	3,175,000 円
加工費	64,800 円	加工費	2,174,400 円

3. その他の資料

完成品として出荷する家畜の飼育日数は 1 頭当たり 90 日であった。期首仕掛品となった家畜は、前期において 72 日の飼育が終了していた。期末仕掛品となった家畜は、36 日の飼育が終了していた。期末仕掛品となった家畜の素畜費は 300,000 円である。

【選択肢】

	期末仕掛品原価	完成品原価
1	300,000 円	5,137,800 円
2	300,000 円	5,152,800 円
3	386,400 円	5,137,800 円
4	386,400 円	5,145,000 円
5	386,400 円	5,152,800 円

問題 8 当社は畜産農業を営んでおり、標準原価計算を採用している。以下の〔**資料**〕に基づいて、完成品原価と賃率差異の組合せとして正しい選択肢を一つ選びなさい。

〔**資料**〕

1. 標準原価カード

	単　価	消費量	原価標準
素　畜　費	2,000 円/頭	1 頭	2,000 円
直接労務費	500 円/h	0.2h×90 日	9,000 円
製造間接費	800 円/h	0.2h×90 日	14,400 円
			25,400 円

2. 当期生産データ（素畜は始点で投入している）

期首仕掛品	0 頭
当期投入	500 頭
合　計	500 頭
期末仕掛品	0 頭
完　成　品	500 頭

3. 1 頭の畜産物を出荷できるようにするために 90 日の飼育日数を要する。
4. 当期直接労務費実績

   4,555,750 円（実際直接作業時間 9,120h）

【選択肢】

	完成品原価	賃率差異
1	1,000,000 円	60,000 円（不利差異）
2	1,000,000 円	4,250 円（有利差異）
3	12,700,000 円	60,000 円（不利差異）
4	12,700,000 円	4,250 円（不利差異）
5	12,700,000 円	4,250 円（有利差異）

問題 9　当社は稲作を行う農業法人である。1ａの農地から60㎏のコメが生産されている。以下の〔**資料**〕に基づいて、損益分岐点を算定した場合、コメの損益分岐点生産量は（　①　）㎏である。空欄（　①　）に入る数値として正しい選択肢を一つ選びなさい。

〔**資料**〕

変動益（売上）単価：12,000円/ａ

変動費単価：7,200円/ａ

固定費：3,600,000円

【選択肢】

1	500
2	750
3	30,000
4	45,000
5	9,000,000

問題 10 簿記一巡の手続きに関する次のＡ～Ｅの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

A. 簿記一巡の手続きのうち日々の手続きは、取引が発生したら仕訳帳に仕訳し、これを総勘定元帳の勘定口座に転記する、という流れになっている。

B. 取引（簿記上の取引）とは、資産、負債、純資産、収益、費用に増減変化をもたらす事象をいう。

C. 簿記一巡の手続きのうち決算の手続きの中で行われる決算整理仕訳は、決算振替仕訳が完了した後に行われる。

D. 簿記一巡の手続きのうち決算の手続きの中で行われる決算振替仕訳は、企業の正しい経営成績および財政状態を示す資料を提供するため、各勘定残高に一定の修正を加えるための仕訳である。

E. 財務諸表とは、企業の経営活動の結果を報告するために作成する書類をいい、損益計算書や貸借対照表、株主資本等変動計算書などがある。

【選択肢】

１．A, D　　２．B, D　　３．B, E　　４．C, D　　５．C, E

問題 11 次の一連の取引に基づき、最終的に振り替えられる生物勘定の金額として、正しいものの番号を一つ選びなさい。

(1) 当期（第 5 期）より搾乳牛の育成を開始した。第 5 期における搾乳牛の育成に要した飼料費は 480,000 円であった。

(2) 第 5 期末決算につき、当該搾乳牛の育成費用について計算を行ったところ、その額は総額で 720,000 円であった。

(3) 第 6 期となり、従来から育成していた搾乳牛が初産の分娩をし、搾乳を開始した。この時点における育成仮勘定の残高は 720,000 円であり、第 6 期における当該搾乳牛の育成費用について計算を行ったところ、その額は総額で 180,000 円であった。

【選択肢】

１．　600,000 円
２．　660,000 円
３．　780,000 円
４．　900,000 円
５．　1,380,000 円

問題 12 有形固定資産に関する次の**ア**～**オ**の記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

ア 平成 24 年 4 月 1 日以後取得した減価償却資産に適用される定率法の償却率は、定額法の償却率を 2.5 倍した償却率（250%定率法）である。

イ 有形固定資産の建設を依頼し、手付金などを支払った場合には「建設仮勘定」の借方に記帳しておき、引き渡しを受けた時点で、有形固定資産の勘定（建物勘定など）に振り替える。

ウ 生物とは、農業用の減価償却資産である生物をいう。具体例としては、乳牛、繁殖用和牛、種豚などの家畜や、ミカン、カキ、茶などの永年作物があげられる。

エ 生物を育成し育成費用を払った場合の借方の勘定科目は、肥料費勘定や飼料費勘定などに記帳しておく。

オ 決算時、生物について育成費用の計算を行った際の仕訳は、借方「育成費振替高」、貸方「育成仮勘定」となる。

【選択肢】

１．ア エ　　２．ア オ　　３．イ オ　　４．ウ エ　　５．エ オ

問題 13 次のうち、誤っている仕訳が二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

ア. 当期首において、商標権を 800,000 円で取得し、代金は小切手を振り出して支払った。

（借）商　　標　　権　　800,000　　（貸）当　座　預　金　　800,000

イ. 決算にあたり、上記商標権の減価償却を行った。なお、耐用年数 10 年の定額法による。

（借）商 標 権 償 却　　80,000　　（貸）商　　標　　権　　80,000

ウ. 会社設立後、営業開始までに必要な支出 600,000 円について、小切手を振り出して支払った。

（借）開　　発　　費　　600,000　　（貸）当　座　預　金　　600,000

エ. 決算にあたり、上記支出額 600,000 円については、繰延資産として処理することとし、5 年の月割償却を行った。なお、支出時から決算日まで 6 ヶ月経過している。

（借）開 業 費 償 却　　60,000　　（貸）開　　業　　費　　60,000

オ. 農業用機械が故障し修理不能となったため除却することとした。当該農業用機械の取得価額は 3,080,000 円、当期首の帳簿価額は 385,000 円、当期の減価償却費（月割計算したもの）は 96,250 円であり、減価償却費の記帳方法は間接法によっている。なお、当該農業用機械の処分可能価額は 288,750 円であった。

（借）減価償却累計額　　2,695,000　　（貸）機　械　装　置　　3,080,000
（借）減 価 償 却 費　　96,250
（借）固定資産除却損　　288,750

【選択肢】

１．ア エ　　２．ア オ　　３．イ オ　　４．ウ エ　　５．ウ オ

問題 14 次の取引に関する仕訳につき、空欄①と②にあてはまる金額として正しい組み合わせとなっている選択肢の番号を一つ選びなさい。

当期 4 月 30 日に搾乳牛を 337,500 円で売却し、代金は翌月の 10 日に受け取ることとした。当該搾乳牛の取得原価は 675,000 円、当期の期首時点における減価償却累計額は 365,625 円である。なお、減価償却費の計算は、耐用年数 4 年の定額法（償却率：0.250）によっており、また、記帳方法は直接法とする（決算年 1 回　12 月 31 日）。

（借）	売掛金	337,500	（貸）	生物売却収入	337,500
	減価償却費	（　？　）		生物	（　①　）
	生物売却原価	（　②　）			

【選択肢】

1. ① 309,375　② 56,250
2. ① 309,375　② 253,125
3. ① 365,625　② 56,250
4. ① 365,625　② 168,750
5. ① 365,625　② 253,125

問題 15 次の**ア**～**オ**の記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

ア. 株式会社において、剰余金の配当等とは、原則として取締役会の決議により、繰越利益剰余金勘定へ振り替えた獲得利益等（剰余金）を配当その他に処分することをいう。

イ. 株式会社において、準備金には、資本準備金と利益準備金とがある。会社法により、剰余金の配当を行う場合には、その剰余金の配当により減少する剰余金の 10 分の 1 を資本準備金または利益準備金として計上しなければならない、とされている。なお、剰余金の配当を行う場合における準備金の積立額は、基準資本金額まで、とされている。

ウ. 株式会社は、事業活動を行ううえでさまざまな税金を納付するが、法人が獲得した利益に基づいて課税される税金として、法人税、住民税、事業税などがあり、これらを総称して法人税等とよばれる。決算において、当該法人税等の金額を計算し、法人税等勘定（費用）の借方に記帳するとともに、未払法人税等勘定（負債）の貸方に記帳する。ただし、期中において、前期の法人税額などに基づいて半額の法人税等を中間申告により納付する場合がある。

エ. 農事組合法人とは、原則として農民（自ら農業を営む個人または農業に従事する個人）の組合員の 3 人以上が、農業生産の協業を図るために運営する法人をいう。農事組合法人には、1 号法人と 2 号法人とがある。このうち 1 号法人は、農業に係る共同利用施設の設置または農作業の共同化に関する事業を行うものであり、また、2 号法人は、農業の経営を行うものである。

オ. 構成員が法人に対して払込みまたは給付をした場合の財産の額について、株式会社では資本金というが、農事組合法人では出資金という。農事組合法人の場合も、農事組合法人の出資金は、設立または増資に関して組合員となる者が、当該農事組合法人に対して払込みまたは給付をした財産の額をもって貸借対照表に計上することを原則としている。なお、組合員は出資義務を負うのみで、農事組合法人の債権者に対して何ら責任を負わないことになっている。これを組合員の無限責任という。

【選択肢】

1．ア エ　　2．ア オ　　3．イ オ　　4．ウ エ　　5．ウ オ

問題 16 次の資料にもとづいて、日本ビジネス農業株式会社の株主資本等変動計算書を作成した場合、空欄（ ① ）～（ ③ ）にあてはまる金額の組合せとして、正しいものの番号を一つ選びなさい。金額の前の「△」は、マイナスを意味している。なお、株主資本等変動計算書の番号が付されていない空欄については、各自で推定すること。

1． 日本ビジネス農業株式会社は、令和７年２月 20 日に開催された定時株主総会において、繰越利益剰余金を財源とする剰余金の配当等を次のとおり決定した。

配当金	450,000 円
利益準備金の積立	会社法の規定する最低積立額
新築積立金の積立	15,000 円
別途積立金の積立	75,000 円

2． 令和７年 12 月 31 日の決算日において、1,209,000 円の当期純利益を計上した。

株主資本等変動計算書

自令和７年１月１日　至令和７年 12 月 31 日　（単位：円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				新築積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	6,000,000	600,000	（ ① ）	60,000	120,000	2,388,000	9,240,000
当期変動額							
剰余金の配当			（　　）			（ ② ）	（　　）
新築積立金積立				（　　）		（　　）	
別途積立金積立					（　　）	（　　）	
当期純利益						（　　）	（　　）
当期変動額合計			（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
当期末残高	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（ ③ ）

【選択肢】

1． ① 70,000　② △450,000　③ 9,990,000

2． ① 70,000　② △495,000　③ 9,999,000

3． ① 72,000　② △495,000　③ 9,999,000

4． ① 72,000　② △495,000　③ 9,990,000

5． ① 72,000　② △450,000　③ 9,999,000

問題 17 次の取引における仕訳の①と②にあてはまる勘定科目と③にあてはまる金額の組み合わせとして正しいものの番号を一つ選びなさい。

1. 当社は、第 15 期中に収入保険に加入することとし、保険料 58,500 円、積立金 168,750 円、付加保険料 16,500 円、合計 243,750 円について普通預金から支払った。

(借)	共 済 掛 金	?	(貸)	普 通 預 金	243,750
	(①)	?			

2. 第 15 期の決算において、上記 1. で計上した共済掛金につき、前払費用勘定に振り替えた。

(借)	前 払 費 用	?	(貸)	共 済 掛 金	?

3. 第 16 期の期首において、上記 2. に関する再振替仕訳を行った。

(借)	共 済 掛 金	?	(貸)	前 払 費 用	?

4. 第 16 期につき、基準収入に対して 30%の減収となった。そこで、収入保険の保険金等の受領見込額を見積計算したところ、その額は 1,181,250 円（内訳：収入保険の保険金 675,000 円、国庫補助相当分の特約補塡金 506,250 円）となった。

(借)	未 決 算	1,181,250	(貸)	(②)	1,181,250

5. 収入保険の保険金等の請求手続を行った。

(借)	未 収 入 金	1,181,250	(貸)	未 決 算	1,181,250

6. 上記 5. で請求した収入保険につき、保険金等 1,181,250 円（内訳：収入保険の保険金 675,000 円、国庫補助相当分の特約補塡金 506,250 円）及び経営保険積立金の払戻金 168,750 円が普通預金口座に入金となった。

(借)	普 通 預 金	(③)	(貸)	未 収 入 金	1,181,250
				(①)	?

【選択肢】

1.	① 支払保険料	② 経営安定補塡収入	③ 1,212,500
2.	① 支払保険料	② 収入保険補塡収入	③ 1,350,000
3.	① 経営保険積立金	② 収入保険補塡収入	③ 1,212,500
4.	① 経営保険積立金	② 収入保険補塡収入	③ 1,350,000
5.	① 経営保険積立金	② 経営安定補塡収入	③ 1,212,500

問題 18～25　米と野菜を生産・販売するＦ株式会社の令和７年１月１日から令和７年 12 月 31 日までの会計期間に関する次の〔資料１〕及び〔資料２〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料１〕決算整理前残高試算表

残　高　試　算　表

Ｆ株式会社　　令和７年 12 月 31 日　　（単位：円）

87,798	現金	
5,217,974	普通預金	
3,128,166	売掛金	
	貸倒引当金	34,974
231,660	原材料	
873,180	仕掛品	
1,644,702	仮払消費税等	
8,800,000	建物	
5,575,000	機械装置	
2,354,000	器具備品	
	減価償却累計額	7,252,850
3,380,000	土地	
	買掛金	1,981,584
	仮受消費税等	2,218,814
	農業経営基盤強化準備金	2,100,000
	資本金	3,000,000
	繰越利益剰余金	5,432,740
	稲作売上高	9,519,444
	野菜売上高	29,997,000
	価格補塡収入	1,821,400
1,298,952	種苗費	
3,838,491	肥料費	
1,925,800	農薬費	
1,534,521	諸材料費	
5,755,848	賃金手当	
312,738	福利厚生費	
1,296,800	修繕費	
2,535,530	動力光熱費	
3,999,600	賃借料	
1,800,700	地代家賃	
6,000,000	役員報酬	
1,880,935	法定福利費	
429,605	事務通信費	
780,000	支払保険料	
1,800,000	販売手数料	
	受取利息	194
	作付助成収入	3,123,000
66,482,000		66,482,000

〔資料２〕決算整理事項

（１）棚卸資産の期末棚卸の状況は、以下のとおりである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

品　目	数　量	単　価
肥料Ｌ	15 袋	4,158 円／袋
農薬Ｍ	25 本	2,673 円／本
農薬Ｎ	30 本	4,752 円／本

なお、期末における未収穫の野菜の評価額は、912,658 円であった。

（２）将来の農用地等の取得に備えるため、当期に交付を受けた農業経営基盤強化準備金の対象となる補助金について、農業経営基盤強化準備金 2,200,000 円を計上する。

（３）当期において土地 1,980,000 円を取得したため（計上済）、同額の農業経営基盤強化準備金の金額を取り崩す。また、この土地について、直接減額方式により同額の固定資産圧縮損を計上する。

（４）種を 209,448 円で購入し代金を掛にしたが、未処理であった。なお、この取引について消費税の計算は考慮しない。

（５）支払保険料に計上した金額には、前払分 65,000 円が含まれている。

（６）以下の減価償却に関する情報をもとに、減価償却費を計上する。記帳方法は間接法によることとし、1 円未満の端数は切り捨てる。なお、当期中に新規取得および除却した固定資産はない。

【減価償却に関する資料】

固定資産	取得価額	耐用年数	償却方法	償却率	期首減価償却累計額	当期償却額	備考
建　　物	8,800,000 円	15 年	定額法	0.067	4,716,800 円		管理に関する費用
機械装置	5,575,000 円	7 年	定率法	0.286	1,594,450 円		製造に関する費用
器具備品	2,354,000 円	5 年	定額法	0.200	941,600 円		製造に関する費用
合　　計	16,729,000 円	－	－	－	7,252,850 円	（　ア　）	－

（７）期末における貸倒れ見積額 46,922 円を貸倒引当金として計上する。記帳方法は、差額補充法による。

（８）決算において、消費税の納付税額が、574,112 円と確定した。

（９）決算において、法人税等の年税額が、1,198,900 円と確定した。

問題 18　上掲【減価償却に関する資料】の空欄（　ア　）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1．2,189,387　　**2**．2,189,837　　**3**．2,189,873　　**4**．2,198,837　　**5**．2,198,873

損　益　計　算　書

F株式会社　　自令和7年1月1日　至令和7年12月31日　　（単位：円）

Ⅰ	売上高		
	1. 稲作売上高	9,519,444	
	2. 野菜売上高	29,997,000	
	3. 価格補塡収入	1,821,400	41,337,844
Ⅱ	売上原価		
	当期製品製造原価		（　イ　）
	売上総利益		（　　）
Ⅲ	販売費及び一般管理費		
	1. 役員報酬	6,000,000	
	2. 法定福利費	（　　）	
	3. 事務通信費	（　　）	
	4. 減価償却費	（　　）	
	5. 支払保険料	（　ウ　）	
	6. 販売手数料	（　　）	
	7. 貸倒引当金繰入額	（　エ　）	（　　）
	営業利益		（　　）
Ⅳ	営業外収益		
	1. 受取利息	194	
	2. 作付助成収入	3,123,000	（　　）
	経常利益		（　　）
Ⅴ	特別利益		
	1. （　オ　）		（　カ　）
Ⅵ	特別損失		
	1. （　　）	1,980,000	
	2. （　キ　）	（　ク　）	（　　）
	税引前当期純利益		（　　）
	法人税等		（　　）
	当期純利益		（　　）

問題 19 上掲の損益計算書の空欄（　イ　）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．26,038,092　　２．26,038,902　　３．26,083,029　　４．26,083,092　　５．26,083,902

問題 20 上掲の損益計算書の空欄（　ウ　）と（　エ　）を計算し、正しい金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．	（ウ）	715,000	（エ）	11,498
２．	（ウ）	715,000	（エ）	11,948
３．	（ウ）	780,000	（エ）	11,498
４．	（ウ）	780,000	（エ）	46,922
５．	（ウ）	845,000	（エ）	46,922

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（　オ　）の表示科目、（　カ　）の金額、（　キ　）の表示科目、（　ク　）の金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．	（オ）	農業経営基盤強化準備金戻入額	（カ）	1,980,000	（キ） 固定資産圧縮損	（ク） 2,100,000
２．	（オ）	農業経営基盤強化準備金	（カ）	2,100,000	（キ） 農業経営基盤強化準備金繰入額	（ク） 2.200,000
３．	（オ）	農業経営基盤強化準備金	（カ）	1,980,000	（キ） 固定資産圧縮損	（ク） 2,200,000
４．	（オ）	農業経営基盤強化準備金戻入額	（カ）	1,980,000	（キ） 土地	（ク） 2,200,000
５．	（オ）	農業経営基盤強化準備金戻入額	（カ）	1,980,000	（キ） 農業経営基盤強化準備金繰入額	（ク） 2,200,000

貸借対照表

F株式会社　　令和7年12月31日　　（単位：円）

資産の部			負債の部	
Ⅰ流動資産			Ⅰ流動負債	
1. 現金預金		( )	1. 買掛金	( )
2. 売掛金		( )	2. 未払法人税等	( )
3. ( )	△	( )	3. (セ)	( )
4. (ケ)		(コ)	流動負債合計	( )
5. (サ)		(シ)		
6. ( )		( )	Ⅱ固定負債	
流動資産合計		( )	1. 農業経営基盤強化準備金	(ソ)
			固定負債合計	( )
Ⅱ固定資産			負債合計	( )
1. 建物		( )		
2. 機械装置		( )	純資産の部	
3. 器具備品		( )	Ⅰ株主資本	
4. 減価償却累計額	△	( )	1. 資本金	3,000,000
5. 土地		( )	2. 利益剰余金	
固定資産合計		(ス)	その他利益剰余金	
			繰越利益剰余金	(タ)
			利益剰余金合計	( )
			純資産合計	( )
資産合計		( )	負債・純資産合計	( )

問題 22　上掲の貸借対照表の空欄（ ケ ）の表示科目、（ コ ）の金額、（ サ ）の表示科目、（ シ ）の金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1.	（ケ）	原材料	（コ）	231,660	（サ）	仕掛品	（シ）	873,180
2.	（ケ）	期首材料棚卸高	（コ）	231,660	（サ）	期首仕掛品棚卸高	（シ）	873,180
3.	（ケ）	期末材料棚卸高	（コ）	271,755	（サ）	期末仕掛品棚卸高	（シ）	912,658
4.	（ケ）	原材料	（コ）	271,755	（サ）	仕掛品	（シ）	912,568
5.	（ケ）	原材料	（コ）	271,755	（サ）	仕掛品	（シ）	912,658

問題 23 上掲の貸借対照表の空欄（　ス　）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．8,677,313　　２．8,677,331　　３．8,767,133　　４．8,767,313　　５．8,767,331

問題 24 上掲の貸借対照表の空欄（　セ　）の表示科目、（　ソ　）の金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．（セ）未収消費税等　（ソ）574,112
２．（セ）未払消費税等　（ソ）574,112
３．（セ）未収消費税等　（ソ）2,320,000
４．（セ）未払消費税等　（ソ）2,320,000
５．（セ）未払租税公課　（ソ）2,320,000

問題 25 上掲の貸借対照表の空欄（　タ　）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

１．9,029,698　　２．9,029,968　　３．9,092,689　　４．9,092,698　　５．9,092,968